

## 生検組織診断分類について

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

この度、およそ 10 年ぶりに胃癌取り扱い規約に改定があり、生検組織診断分類(グループ分類)が新しくなりました。胃生検組織診断基準に大きく変更点がございましたのでお知らせいたします。

新胃癌取り扱い規約(第 14 版、2010 年)より、新グループ分類ならびに旧グループ分類との対比を抜粋し、ご案内申し上げます。

また、弊社におきましても病理医の準備が整い次第、早急に新分類での記載に対応させて頂けるよう準備しておりますが、当面は旧分類でのご報告という場合もございますが、何卒ご理解ご了承の程、宜しく願い申し上げます。

敬 具

2010 年 4 月

### 胃生検組織診断分類 (Group 分類)

#### ● 原則

胃の内視鏡的生検材料を対象とし、ポリペクトミー材料、内視鏡的粘膜切除・粘膜下層剥離材料や外科切除材料は除外する。

グループ分類は上皮性のもののみ用い、非上皮性のものには用いない。

このグループ分類は病変の診断区分を明確にする事を目的とするものである為、生検診断の際には診断名を記載し、それにグループ分類を併記する事を原則とする。

#### ● 新分類

Group x : 生検組織診断が出来ない不適材料

Group 1 : 正常組織及び非腫瘍性病変

Group 2 : 腫瘍性(腺腫または癌)か非腫瘍性か判断の困難な病変

Group 3 : 腺腫

Group 4 : 腫瘍と判断される病変のうち、癌が疑われる病変

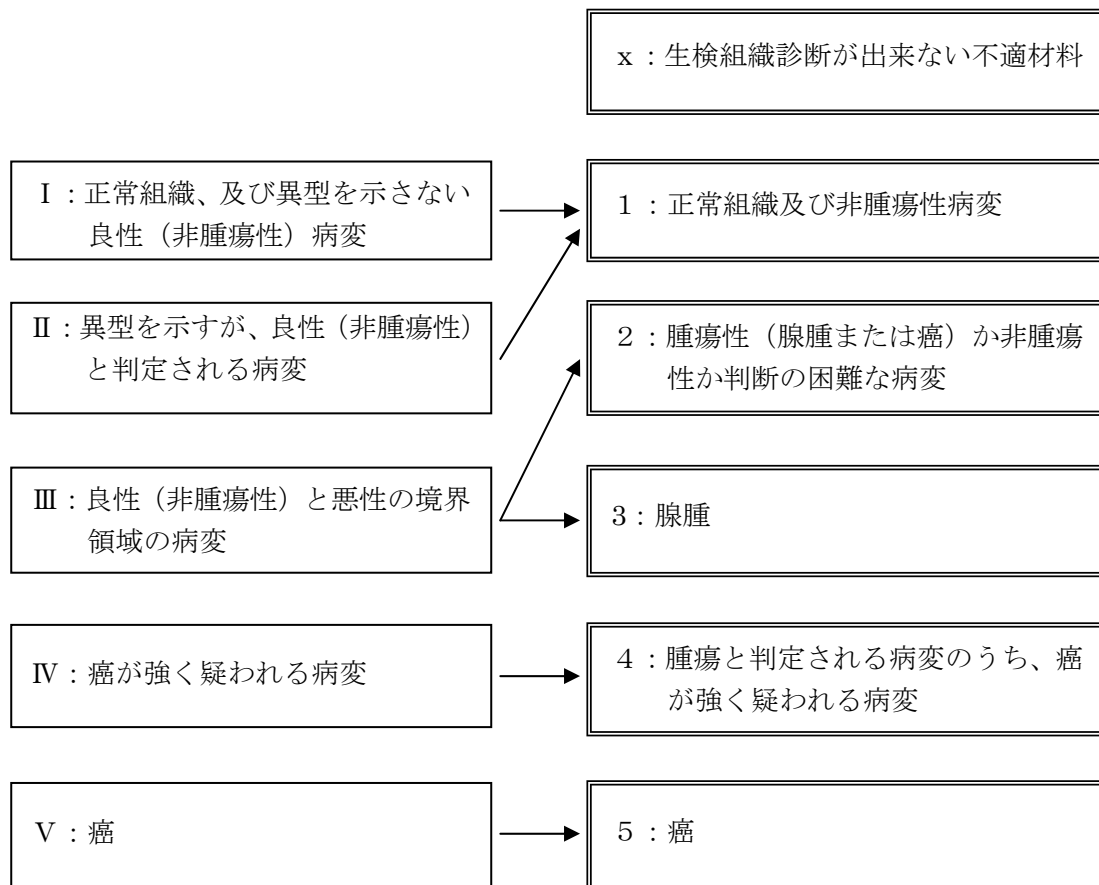
Group 5 : 癌

裏面に続く

● 旧グループ分類と新グループ分類の対比

旧グループ分類（第13版、1999）

新グループ分類（第14版、2010）



お問い合わせは最寄りの営業所 または、  
本社・研究所にお願いいたします。

**SMS** 株式会社 **昭和メディカルサイエンス**  
本社・研究所：東京都町田市鶴間541番地2  
TEL 042 (795) 6000